

2026 年度 大学院春季入試（法律学専攻）

博士課程（前期）

専攻科目 民法法演習（民法・萩原基裕）（100 点満点）

---

【合否判定の方法】

・一般 1 方式《外国語科目》《専攻科目》《面接》

提出書類、外国語科目と専攻科目の筆記試験の成績、および面接の成績を総合的に評価し、合否を判定する。

一般 2 方式《専門科目》《専攻科目》《面接》

提出書類、専門科目と専攻科目の筆記試験の成績、および面接の成績を総合的に評価し、合否を判定する。

【合否判定の基準】

法律学専攻の入学受入れの方針(アドミッション・ポリシー)に基づき、提出書類、筆記試験の結果、および面接の結果を総合的に評価し、研究計画の妥当性および博士前期課程における研究遂行能力の有無を判断する。

1 試験日： 2026 年 2 月 13 日

2 科目： 専攻科目 民法法演習（民法・萩原基裕）（100 点満点）

3 出題意図：

民法、特に契約法に関する知識が十分に備わっているかを判断するため、契約自由の原則とその例外について出題した。契約自由の原則は契約法における必須の基礎的知識の一つであるが、具体例も挙げさせることで同原則を言葉として覚えているだけでなく知識として身につけることができているかを見ることとした。また、契約自由の原則にはそれぞれの具体的自由に対応する例外も存在し、またその例外が取引において重要な役割を果たし、また論点となる場合もある。契約自由の例外については初歩的教科書では詳しく言及されないこともあるため、こうした課題により単に受動的に講義を受けるのみならず積極的に知識を得ようとする態度、意欲をはかることができると考えた。

以上